

大会のあり方の検討状況と2021年度秋季大会について

日本気象学会

ワクチン接種も本格化してきたとはいえ、予断を許さぬ新型コロナウイルス感染状況が続いていますが、
気象学会会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか？

皆様もご存じの通り、コロナウイルス感染拡大が顕著になった昨年4月に国内では初となる緊急事態宣言が出され、2020年春季大会は急遽紙面開催とせざるをえませんでした。その後、2020年秋季大会および2021年春季大会は、人の移動や集会にともなうリスクを避けるため、オンラインでの開催となりました。初めての試みということもあり、会員の皆様にはいろいろとご不便をおかけいたしました。大会実行委員会と講演企画委員会のご尽力により、両大会とも円滑かつ安全に開催できましたことを気象学会としては喜ばしく考えております。大会参加者数も2020年秋季大会712名、2021年春季大会729名とそれまでの大会同様に盛況でした。大会終了後のアンケートでもさまざまなご意見をいただきましたが、オンライン大会の内容には概ね満足という声を多くいただいています(2020年度秋季大会のアンケート結果のまとめは<https://www.metsoc.jp/meetings/2020a>からご参照いただけます。2021年度春季大会分については準備中です)。

この間、気象学会では「ウィズ/ポスト・コロナ時代の大会のあり方検討ワーキンググループ」を立ち上げ、講演企画委員会や大会実行委員会と緊密な連携をとりながら、大会運営についてさまざまな議論を重ねてきました。オンライン大会のメリットは認識しつつ、現地での大会開催を望む会員の声も多数あることを受け、2021年秋季大会では、感染状況に注意しつつ、現地開催とオンラインのハイブリッド形式を予定しております。「天気」5月号に掲載いたしました大会告示で

もご説明していますが、もし感染再拡大の状況に至れば、すべてオンラインでの実施に切り替えられるよう準備を進めております。なお、ハイブリッド形式は、大会実行委員会の運営の負荷がとて高いため、オンライン中継は、第4日午後の授賞式、受賞記念講演、シンポジウムでのみ行います。すなわち、口頭発表はオンライン中継をいたしません。したがって、オンライン中継は第4日午後のみとなりますが、中継実施には費用がかかるため、オンラインのみの参加の方々に対しても現地参加の方々と同額の参加費とさせていただくことにいたしました。なにとぞご理解賜りますようお願い申し上げます。なお、過去2回の大会と同様に口頭発表についてもオンラインで講演資料を見ることが可能です。

2022年春季大会以降の大会の開催形式についても、引き続きワーキンググループを中心に議論を続けてゆく予定です。コロナウイルス感染拡大が収束したいわゆる「ポスト・コロナ」の時代に適した、かつ会員の皆様の活発な研究発表・討議をサポートできる大会のあり方を模索してまいります。会員の皆様からのご意見も歓迎いたします(<https://www.metsoc.jp/contact>にて承っております)。

今後も適宜、決定事項を学会メーリングリスト、学会ホームページ、「天気」誌上でご報告いたしますので、何卒よろしくお願いいたします。